



Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.28 英語担当 スミスさん

◆なぜ医療通訳者になった？

地域の中学校で英語通訳として勤めていた時、通訳対象の中学1年生の生徒が、母親を病院に連れて行くために学校を休んだことがありました。家族の中で日本語が分かるのが彼だけだったそうです。しかし、本人も通訳が必要なほどですから、診察での話を十分理解することはできなかったでしょう。外国人が安心して日本社会で暮らすために、言語の壁に阻まれず安心して医療を受けられるシステムの必要性を感じました。ちょうどその頃、大阪大学の医療通訳養成講座のことを知り、この世界へ飛び込みました。



◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

患者様の診察のほんの一助でも担うことができている嬉しさです。まだ経験が少なく、「これ！」といった場面は思いつきませんが、日々の小さなことの積み重ねが励みになっています。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

正確にスムーズに通訳できるように、いろいろなものを見聞きし、知識を増やすことを心掛けています。とにかく、勉強あるのみです。英語はネットや書物の情報が豊富ですので、飽きないようにメディアを変えながら、毎日こつこつ勉強を続けています。実際の通訳では、画面越しの患者様の表情などから、先生のおっしゃっていることが伝わっているか、不安はないかなど、言葉にならない表現にも気を配るようにしています。

次月号から
「新企画スタート」

医療通訳だよりが丸4年を迎えました。いつもお読みいただき、ありがとうございます。通訳者の紹介に始まって、「よもやま話」では、「日本とちょっと違うよ」をコンセプトに、皆さんにいろいろな国の「へえ～」をお届けしてきましたが、5年目の次号からは新しい企画がスタートいたします。題して「医療の現場アラカルト」です！

医療通訳者としてだけでなく、時には自分が患者となつて、あるいは家族や友人の付き添いとして「医療の現場」に赴くことは多々あります。その中で「通訳者が見たり聞いたり体験したこと」をお伝えしたいと思います。

実際に医療の現場で日々奮闘しておられる皆さんからは、「えー、そんなことある？」とビックリされてしまうかも？逆に「そうそう、あるよね～」と共感していただければ、とてもありがたいと期待していますが、さてどんなお話が飛び出すやら…。

来月号からの新企画、どうぞよろしくお願いいたします。

今月のトピックス

「人生初の大腸カメラ検査」



胃カメラや大腸カメラなど、検査の事前説明や、検査中の通訳をすることがよくあります。中には、通訳者自身が経験したことがない検査ももちろんあります。これは先日、あるスペイン語通訳者が人生で初めて大腸内視鏡検査を受けた時の体験談です。

人生初の大腸カメラ検査！ということもあり、大腸内視鏡専用検査食を自分へのご褒美？として特別に購入しました。しかも増量タイプ！味は普通の食事とあまり変わらない食べやすいもので、前日の3食を安心して摂ることができました。

ところが、当日の検査前処置用下剤の経験はまさに地獄としか言いようがありません。ジュースの味で美味しかったのも束の間、3時間かけて飲み続け、腸を空っぽにし…午後、病院に到着する頃にはすでにひどい頭痛、発汗、だるさがあり、さらには吐き気、嘔吐でベッドに寝かされ、なんと頭部CTまで撮ってもらうことに！頭痛を抑える薬の点滴のおかげでどうにか検査へ向かうことになりました。

「頭痛は大丈夫？」と聞かれ、「100%ではないけれど、大丈夫」と答えたのが最後の記憶、目が覚めると大腸カメラはすでに無事に終了していました。

通訳をすることは常に緊張を強いられるものですが、検査を受けることもまた違った意味でドキドキの体験でした！今回実際に経験して、スリルと緊張感に包まれるものだと感じた次第です。

